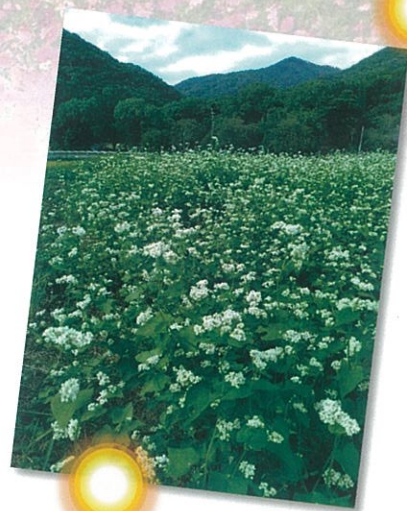
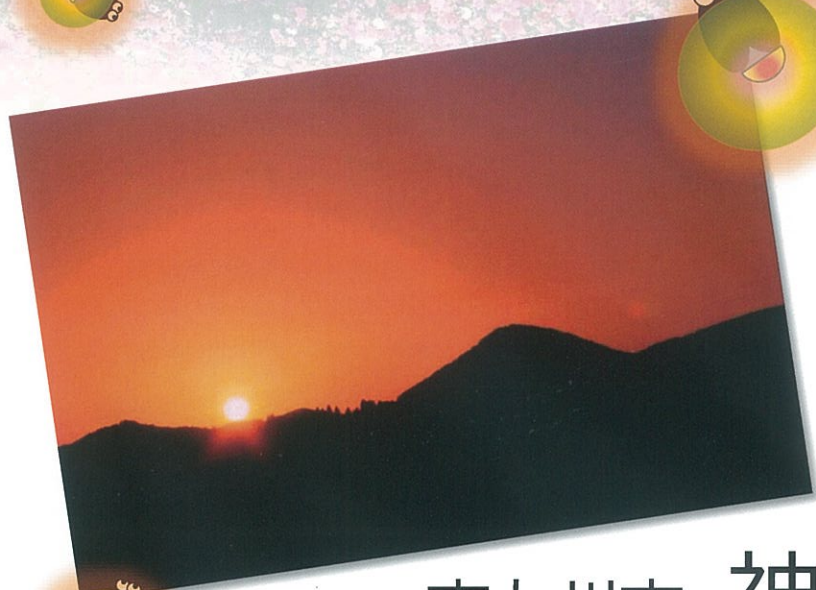




こうどん 美しい、神殿

未来づくり 10 年計画



南九州市 神殿地区公民館

◇ 10 年計画作成までの経緯

美しい水と豊かな森林資源を持ち、稲作を中心に農耕も盛んな神殿地区。古くは金の採掘や炭焼きなど多くの人々が様々な産業に関わってきました。近年、南薩縦貫道路が整備され鹿児島市へのアクセスも便利になりました。

しかし、平成 29 年 3 月に神殿小学校が閉校し、年々過疎化が進む中、現在は人口 254 人、高齢化率 52.7% となって地域の環境整備や高齢者の生活支援など多くの課題が山積しています。

そこで、令和元年度より『神殿未来創生会議』を立ち上げ、神殿地区の今後を徹底討論することを通して、未来 10 年計画を作成し計画的な地域づくりを進めてきました。

◇ 10 年計画の基本的な考え方



人口減少や高齢化が進んだ神殿地区は、環境整備や高齢者支援活動の必要性を感じながらも人材確保は難しいと思われます。地区の 10 年後 20 年後を考えた場合、より少人数で機能的に課題が解決できる方法を考えていく必要があるようです。

全国的には多くの過疎地域が同様の課題を解決しようと、様々な取組を実践していることを考えると、まずは先進地に学び、そこから神殿地区にあった課題解決策を見つけしていくことが大切ではないかという意見が出されました。

そこで私たちは、まず課題ごとに先進地や専門家に学ぶことから始め、自分たちで解決できる具体策を見つけていき、できることをできる方法で美しい神殿の未来創生を考えていくことにしました。

◇ 美しい神殿 未来づくり 10 年計画とは

神殿未来創生会議では令和元年度から話し合いを進めてきました。その中で出されたキーワードが「美しい神殿」です。「美しい」という言葉の中には「自然環境の美しさ」「人々の心の美しさ」「生活環境の美しさ」など様々考えられます。それらを次の 3 つの計画に整理し、神殿の未来を考える基本柱としていきます。

ホテル計画

- 1 美しい川
- 2 美しい道
- 3 美しい花
- 4 美しい田畑

つどい計画

- 1 居場所づくり
- 2 交流・関係人口
- 3 情報交流

くらし計画

- 1 安心安全
- 2 利便性促進
- 3 楽しい暮らし
- 4 新たな公民館活動

ホタル 計画



ホタルの舞う美しい自然を保ちながらも、災害のない安全な地域であり続けたい。しかし、道路や河川の環境整備作業は、**地域住民にとって年々負担が大きくなってきています**。田畑も含めて常に美しい環境を整えるために、**持続可能な整備計画**を考えていきたいと思います。

【1 美しい川】

- A ホタル育成の方法について先進地に学ぶ
- A ホタル愛好会の結成（関係人口も活用）
- A 川の環境や森林の環境保全について学ぶ
 - B 環境整備計画をつくる（土手・道路・田畑等）
 - B ホタル育成計画をつくる
 - C ホタルの舞う地域づくりを実践する

A, B, Cは取組の段階を表し、基礎から順に固めつつ、着実にゴールを目指します。

ゴール ①

神殿の川を多くのホタルが舞う環境に整える

【2 美しい道】

- A 少人数でも環境整備ができるしくみづくりについて学ぶ
- A 清掃組合「美しい神殿組合（仮称）」の設立について計画する
 - └（誰が、何をするか。何が必要か。）
 - B 環境整備に必要な備品や施設の整備
 - └（助成金等の活用）
 - C 清掃活動を実践する

ゴール ②

神殿の道を常に整備された状態に整える

【3 美しい花】

- A 地域に適した花種について学ぶ
- A 花愛好会の結成（関係人口も活用）
- A 育苗から植付計画をつくる
 - └ 学校周りの花壇（彼岸花など）
 - └ 地域の花作りが得意な人を取り込む
 - B 持続可能な整備資金の確保
 - C 植付作業を実践する

ゴール ③

神殿を花の美しい地域に整える

【4 美しい田畑】

- A 農地の土地改良整備を含め、耕作放棄地対策の先進地に学び、実現に向けて取り組む
 - └ 神殿農地活用組合・農業委員会との連携
 - B 住民で耕作地を守るためのグループ設立
 - └ いつでも活用できる状態を保つために
 - └（ロータリーをかけるだけでも）
 - C 関係機関との連携組織
 - └ 小中学生を招いて体験交流
 - └ 活動資金捻出のための耕作

ゴール ④

神殿の田畑をいつでも使えるように整える

つどい 計画



学校跡地は神殿地区唯一の住民にとって憩いの場所となりえます。また、地区外の人々が交流し住民とともに神殿のよさを実感してもらえる場所でもあります。人口減少により自治会活動も縮小の方向にあり、互いに顔を合わせる機会が少なくなっていることから、積極的な情報発信を行い、訪れる人々と共ににぎわいあふれる神殿をつくっていきたいと思います。

【1 居場所づくり】

- A 校庭を常に使える状態に保つ
 - └ 利用のあるなしにかかわらず最低限きれいに
 - └ 「美しい神殿組合(仮称)」との連携
 - └ 校庭の活用方法を探る(住民→一般)
- A 校舎内の各教室等の活用方法を探る
 - └ 家庭科室を調理室として活用できるように
 - └ (特産品の加工も)
 - └ 野菜の販売
 - └ 住民の健康推進に関する活動
- A 講堂の活用方法を探る
 - └ 安全に使える施設としての整備



ゴール ⑤

学校跡地を住民の憩いの場として整える

【2 交流・関係人口*】

- A 交流人口や関係人口の在り方について先進地に学ぶ
- B 交流人口を増やす方法を考える
- B 関係人口を増やす方法を考える
 - └ みかん狩り
 - └ 学生を招く(田植え体験, わら細工)
 - └ 大学生, 川辺小との連携
 - └ 歴史や文化を語り継ぐ
- C 交流事業の実施

ゴール ⑥

地区内外の人々が楽しく交流する場を整える

ゴール ⑦

交流人口や関係人口を増やし、協力体制を整える

【3 情報交流】

- A 情報発信の方法について検討する
 - └ 地区住民への発信内容と方法
 - └ 地区外への発信内容と方法
 - └ 光ブロードバンドの利用拡大
- B QRコードによる情報発信
- B 神殿のコマーシャルを作成し発信
 - └ (YouTube 等)

ゴール ⑧

神殿地区の情報をネット上で交流できる場を整える

ゴール ⑨

交流人口や関係人口を広げる広報活動を行う



* 関係人口とは

行事に参加するために神殿を訪問する人(交流人口)が、参加する度に神殿のことが好きになり、繰り返し参加したり運営を手伝ったりするようになる。また、神殿出身者が故郷を思い、活動を支援したいと思うようになる。このような人々を「関係人口」とよぶ。

くらし 計画



山間部が多く中央に川が流れる神殿地区は、大雨における防災対策が急務と言えます。今後、独居家庭が増えることも視野に入れて近隣住民が互いに声をかけあい、安心して楽しく生活できるしくみを整えていきたいと思います。

【1 安心安全】

A 防災上の課題把握

- B 防災訓練の実施
- B 独居家庭の避難誘導體制の整備
 - └ 台風や地震の際の声掛けの方法など
- B 避難所施設の整備充実
 - └ 講堂の補修
 - └ 外トイレへの動線確保
 - └ 避難所空間の整備（床、仕切りなど）
- B 交通安全に関する組織の再整備
- B 地域全体の防災計画策定
 - └ できるところから見守りのしくみを考える
 - └ 防災対策の徹底

ゴール ⑩

緊急時に安全な避難ができる環境を整える

ゴール ⑪

日常の交通安全と防災対策を整える

【2 利便性促進】

A 地域交通システムの先進事例を学ぶ

- B 現状の交通システム活用調査を行う
 - └ 現状のシステムの活用を推進する方策を検討
 - └ 新たな路線についても検討
- B 住民が必要としている移動手段について調査する
- B 生活支援の必要状況を調査する
 - └ どんなしくみが必要なのか検討する
 - └ 高齢者の乗降お手伝いのしくみづくり

ゴール ⑫

高齢者の地域移動システムを整える

ゴール ⑬

高齢者の生活支援システムを整える

【3 楽しい暮らし】

A 自治会内の声掛けや交流の促進

- └ 地域住民ぐるみで声掛けやお茶飲みができるしくみづくり
- └ 市役所関係課との連携（地域包括ケアシステム等）
- B 庭先の花壇づくり
 - └ 住んで楽しい地域づくりや生きがいづくり
 - └ 花苗の配布やフォトコンテストなど
- B 空き家調査と活用策
 - └ すぐに住める家の確認と活用
 - └ 市の空き家対策事業との連携

ゴール ⑭

自宅で快適にすごせる地域づくりを整える

ゴール ⑮

人口減少
超高齢化社会に
対応した
公民館組織に
再編する

【4 新たな公民館活動】

- A 4つの自治会と区の関係を整理する
- A 地区公民館の組織や活動を整理する



神殿地区の人口状況(令和2年12月現在)

- ▶ 世帯数:148
- ▶ 人口:254名(男:115, 女:139)
- ▶ 高齢化率:52.7%



編集後記

令和元年12月から約1年間の熱心な協議によって、将来に誇れるような素晴らしい10年計画ができました。この計画を公民館活動に活かして、将来の子供たちにも誇れる神殿にしていきたいと思います。

神殿未来創生会議メンバー及び市企画課集落支援員の方々に感謝申し上げます。

令和3年2月吉日
神殿地区公民館長 前野正廣

エスディーシーズ

SDGsとは

「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。SDGsは2015年9月の国連総会で採択されたもので、2030年までに達成を目指す共通目標です。各計画の上部に関連するマークを付けています。どうしても地球規模の話に聞こえてしまい、自分のこと、自分が暮らす地域のこととして考えにくいかもしれませんが、まずは地域の課題がどれに当てはまるか、「まちづくり」という観点で、現在できていること、今後できることを整理してみましょう。そして、SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」地域づくりを目指してまいりましょう。

美しい神殿 未来づくり10年計画

第1期 2021~2030

編集 神殿未来創生会議
協力 南九州市企画課
南九州市集落支援員
デザイン 齋藤 博・田中崇徳

発行 神殿地区公民館 (2021年2月)
〒897-0201 鹿児島県南九州市川辺町神殿 5686 番地 1
Tel&Fax 0993-78-3094